

# HOTeye

心と心のかよいあう福祉の情報誌

ホットアイ

2021 Vol.106

- P1 特集 社会福祉事業所紹介  
楽しみながら安心できる親子支援を  
鳥取県立総合療育センター  
医療型児童発達支援センター「のびっこワールド」
- P5 チャレンジ福祉の仕事 [保育士・言語聴覚士]  
鳥取県立総合療育センター  
医療型児童発達支援センター「のびっこワールド」
- P6 福祉専門職の紹介 [理学療法士]  
子どもたちの無限の力を引き出したい
- P7 福祉人材センター情報  
「福祉のお仕事」への就職を応援します!
- P8 ボランティア・市民活動センター情報  
とっとりボランティアバンク登録団体紹介  
人形劇団「いとぐるま」
- P9 ボランティア・市民活動センター情報  
未来へつなぐ高等学校ボランティア部員  
からのメッセージ [米子松蔭高等学校]
- P11 ことぶき高齢者情報  
とっとり方式認知症予防プログラム
- P12 ことぶき高齢者情報  
いきいきシニア
- P13 鳥取県社会福祉協議会からのお知らせ

障がいと共に生きる「親子の成長を支援



# 鳥取県立総合療育センター 医療型児童発達支援センター 「のびっこワールド」

「のびっこワールド」は、米子市皆生温泉街の西側に位置する鳥取県立総合療育センターの中にあります。

運動障がいや発達の遅れなどがある就学前の子どもたちが家族と一緒に通園できる、全国的にも珍しい「親子通園療育施設」です。

医療的ケアやリハビリテーションが必要な障がいのある子どもたち、

その一人ひとりの発達状況にあわせた小集団保育活動のなかで

楽しみながらできるように考えられたリハビリを取り入れ

“障がいとともに生きる”子どもと保護者の成長を支援しています。



※取材撮影時は、別室で会話をしないで撮影をしております。

# 楽しみながら安心できる親子支援を

## 遊びを通して リハビリ

医療型児童発達支援センターのびっこワールドでは「子どもにとって保護者が一番の理解者であり支援者であってほしい」との思いから、家庭や生活の場でもできる療育を実践できるように親子への支援をしています。



楽しみの中にちりばめられたたくさんさんのリハビリ的要素を引き出し、子どもたちは遊んでいる間にリハビリをしています。

例えば、変形・拘縮（こうしゅく

※）の予防のために、立位でストレッチをするときにも、リハビリとしてただ立つのではなく「歌を歌ったり、制作活動をしている間に立てるリハビリ」であったり、「おはよう」のあいさつの声を吹き込んだスイッチを押したい気持ちになり、自分の力で立ち上げられるようになるなど、「遊びや生活の中に自然と達成したい目標を入れ、保育活動のなかに楽しくできるリハビリプランを立てています」と、医師で園長の飯塚俊之先生は話します。

## 意欲を引き出す 保育活動

保育活動は、医師、保育士、児童指導員、理学療法士、言語聴覚士、看護師など、かかわるスタッフ全員で、子どもたち一人ひとりに合わせた内容を細かく話し合います。今日の

活動は子どもたち

ちがどのように楽しめるか、もっと力を発揮するにはどんな環境づくりがよいか、全スタッフが子どもたちの様子をもとに見立てをしなから、活動プランを立てていきます。

保護者の希望として、「自分のことは、できるだけ自分でできるようになってほしい」という共通の思いがあります。障がい児は日常生活動作のひとつをとっても、できるまでに時間がかかったり、小さなステップを踏みながら獲得していきます。

「ご飯を自分で食べるという過程にも、食べたい気持ちになっているか、食べ物を見て口を開けてくれるかなど、意欲の育ちのステップを大切に、少しずつ自分でできるようにします。」

運動に遅れのある子どもたちは、麻痺や筋力の弱さ、理解意欲の乏し

鳥取県立総合療育センター  
医療型児童発達支援センター  
「のびっこワールド」  
いいづかとしゆき  
**飯塚 俊之**  
園長

さから「まだできない」と判断され、何でも大人がしてしまいがちですが、それでは子どもに大切な「経験」の機会を奪ってしまいます。重要なのは手伝ってもらいながらも、自分で実際に動いて経験を積み重ねることです。

「大人が子どもの経験する機会を奪うことのないよう保護者に対して、どのような環境を整え、どの部分は見守り、この部分は手伝うなど、

※ 1回だけの刺激によって生じる筋肉の持続的な収縮。また関節に原因がないのに、関節が動かなくなる状態

※取材撮影時は、別室で会話をしないで撮影をしております。

具体的ななかかわり方を指導するの  
も私たちの大切な役割だと思ってい  
ます」と、療育の姿勢を話すのは児  
童発達支援管理責任者の小泉浩二  
さんです。



児童発達支援管理責任者の小泉浩二さん

また、来園する子どもたちの多く  
は、保護者や支援者などの大人と関  
わる機会が多い反面、子ども同士で  
かかわる経験が少ない傾向にあり  
ます。社会性という観点で見た時に、  
大人との「縦のつながり」は充分なの  
に、子ども同士の「横のつながり」を  
学ぶ機会が少ないようです。

小泉さんは「通園する子どもも、  
いつかは卒園し地域で同年代の子ど  
もたちと関わる時間が圧倒的に多  
くなります。当園では早い段階から  
そのことを想定して、小集団での活  
動を提供しています」と話します。

## 保護者同士が つながるしくみ

親子で一緒に園に通うことで、不

安なのは自分だけではないと、親子  
や仲間と一緒に心から笑え、穏やか  
に過ごせることは、親子通園の良い  
ところ。普段の活動中の何気ない  
会話や、子育てや子どもへの想いな  
どの本音の話など、親同士でゆっく  
り話せる機会が求められています。

「家族支援」の基本は、保護者の  
不安感や孤立感を少しでも和らげ  
ることです。活動の合間や休憩時間  
に行われる何気ない世間話をきっか  
けに、保護者同士が活発に意見や情  
報交換をしてもらえよう、スタッフ  
が雰囲気づくりをします。そして、  
保護者同士の距離が近づくにつれて、  
子育てに対する不安の多い保護者  
には心のよりどころとなります。

園では、かかわる全ての専門職員  
が、様々な分野についての保護者勉  
強会を定期的に開催しています。そ  
れぞれの専門的な立場から、子育て  
のヒントになりそうなトピックを廠  
選して分かりやすく伝えて共有し  
ています。

また、卒園した子どもへの保護者が  
現在通園中の保護者に対して行う  
「先輩保護者勉強会」も開催してお  
り、その経験談は、非常にリアルかつ  
有益なアドバイスとなっています。

子どもの気になる行動の解決や



大小3室ある保育室

発達促進を目的とした、保護者向  
けに行う「ペアレント・トレーニング」(ペ  
アトレ)プログラム)もあります。幅  
広い障がいを持つ子どもにアレンジ  
して保護者に向けて実施し、より適  
切な行動を促す上手な伝え方や、  
良い行動の褒め方、環境調整の仕方

などを応用行動分析学に基づいて  
分かりやすく解説し、家庭での実践  
をお願いしています。

保護者の漠然とした不安が、ペ  
アトレの対処方法を学び実践するこ  
とで、一つひとつ解決していきます。

また、園や小学校の先生や事業所



「サポートブック」づくりで深まる療育への理解

のスタッフなど、子どもがこれから新しく出会う支援者に向けて、保護者が子どもの特徴や支援のポイントをまとめた「サポートブック」の作成にも力を入れています。

作成は「読み手に分かるように、自分の言葉で伝える」ことを特に重視しています。相手に伝えるためには、まず我が子をよく知る必要があります。「より良いサポートブックづくり

」より深い子どもへの理解」にもつながります。保護者には、そんなサポートブック作成を通して、子育ての醍醐味をたくさん味わってもらいたい、言語聴覚士の瀬尾洋平さんは

話します。

## より良い子どもと地域(生活)支援を

のびっこワールドと並行通園で保育園に通いだした子どもたちの変化は目を見張るものがあります。しかし保育園側も「気をつけること」「発達を促せるかわり方」などに不安を感じており、サポートブックと合わせて、その不安解消や後押しをする「保育園への支援」も行っています。

また「居宅訪問型児童発達支援」では、重度の障がいやそれに準ずる状態にあり、支援を受けるための外出が困難だと認められた障がい児に対して、居宅を訪問し保育を提供・支援する事業も始めています。のびっこワールドではスタッフそれぞれが、自分の職種の業務だけではなく、他職種の知識・技術の共有を互いに広げながら、オールマイティなサービス提供ができるように努力しています。

また、子どもの様子に合わせて、急遽やり方を変えたり、もっと楽しめるように予定を変更します。決めたプランをこなすのではなく、心が動く活動で子どもたちの力が発揮

できることが大切であり、そのためには療育の知識・技術を常に発揮しながらの「保育のアドリブ力」が求められます。

そして一方的な支援ではなく、「自分の力でやってみよう」と感じられるようにサポートし、「園で頑張ったことが次への自信になった！」と言ってもらえるような支援を目指します。このように、のびっこワールドでは親子が力をつけ、主体的でたくましく生活するために必要な支援を行い、地域で安心して暮らせるように、気を配りながら支援を続けています。



### 【概要】

- 所在地 鳥取県米子市上福原7丁目13-3
- 開設日 2003(平成15)年4月 肢体不自由児通園  
2012年4月 医療型児童発達支援センターに移行
- 運営主体 鳥取県
- 職員数 8名(総合療育センターとの兼務者を含む)  
園長(医師)1名、児童発達支援管理責任者1名、保育士3名、児童指導員(兼務)1名、看護師1名、理学療法士1名、言語聴覚士1名
- 利用定員 30名(親子通園)
- 利用相談窓口 児童発達支援管理責任者 小泉



# Challenge チャレンジ福祉の仕事

鳥取県立総合療育センター  
医療型児童発達支援センター「のびっこワールド」

福祉分野の質的变化や制度改革などにより、福祉施設などではさまざまなキャリアや資格をもつ人材が求められ、それに応じて働きがいをもって福祉の仕事に新たにチャレンジしている人たちがいます。ここでは、福祉分野の仕事に就労し、情熱を燃やしている人たちを紹介します。

## 地域の中で安心して暮らせるように

保育士 なかもと 永本 ゆきみさん

保育士として14年、総合療育セン

ターに勤務して9年になる永本ゆきみさんは、障がい児(家族)支援の仕事について「今は、子どもの成長にじっくりとかかわれることに、やりがいを感じたと同時に、責任の重さを実感したと話します。

そして「いま子育てを楽しいと思ってもらえるように、子どもの楽しい、できる、を保護者と一緒にたくさん見つけ、発達を促進する、楽しい、やりたい」と思ってもらえる親子で楽しめる遊びを提供し、家庭や園に伝えていくことが大切だと考えています」と永本さん。そのためにも、子どもの得意なこと、苦手なことを知り、客観的な評価も参考にしながら、子どもがどう感じ、何を思っているかなど、その様子を細やかに観



察するようになっています。

子どもたちは、身体の動きや表情、呼吸など、いろいろな方法で気持ちを伝えようとします。永本さんは、その小さなサインを見逃すことなく、保護者やスタッフと共有し、支援が一方的にならないよう、関係者との対話を大切にしながらすすめています。

「保護者の悩みや心配事を関係者みんなで解決できたときに、特に喜びを感じます。初めて通園する親子は、不安な気持ちでいっぱいですが、子どもの成長とともに保護者も少しずつ自信をつけ笑顔で園を巣立っていくかれます。そんな姿を見ると、この仕事について良かったと思います」と永本さんは笑顔を見せます。

そして、卒園してからも会いに来てくれたり、電話や年賀状等で様子を教えたり、成長する姿を見ることができると嬉しく、明日への活力になると話します。「子どもは子どもの中で育ちます。大人では引き出せないような反応を見せる子どもの可能性は、無限大だと改めて気づかされます。地域の中で親子が安心して生活できるように支えています」と、チャレンジし続ける永本さんです。



瀬尾洋平さんは、総合療育センターに勤務して10年になります。言語聴覚士は、食事とコミュニケーションの面でのかわりが多く、例えば食事では、大人と同じ食形態ができる子どもがいれば、ベースト状の食事だったり、胃腸注入で栄養を確保している子どももいます。「コミュニケーションにおいて、簡単な会話ができる子どもから、身振りや視線や表情の変化で気持ちを表現する子どももいます。

実際に現場にいたときは、「かわる子どもたちの、障がい像が非常に多岐にわたることに驚き、やっていけないのが不安があった」と話します。しかし今では、それは多種多様な「生き方のスタイル」を持っていると認識できるようになり、それぞれの違いと成長に合わせた支援を行うことが大切だと考えています。

障がい児療育は、医療系に比べると家族支援がより重要な位置づけにあります。障がい児を産んだ自分を責めたり、普通とは異なる方法での子育てで葛藤したり。「そのような保護者に対して、私たちは支援者として適度な距離感を保ちながら、子どもと同じように、障がいと共に生きている家族に寄り添い、支援しなくてはならない



と思います」と瀬尾さんは話します。

子どもが自分の持てる力を十分発揮して、新たなことに挑戦できるようになるなど、子どもの成長を実感できる姿に、瀬尾さんは大きなやり甲斐を感じています。また、保護者が活動を通じて自信に満ちた表情に変わっていく様子がみられることも、支援者としてとても大きな喜びとなっています。

「自分に自信をもって支援できれば、それは必ず子どもにも伝わると思っています。これからも子どもたちからたくさん学びながら、もっと親子を理解できる支援者になりたいです」と瀬尾さんは目を輝かせます。

## 子どもと保護者の成長に大きな喜びが

言語聴覚士 瀬尾 洋平さん



※取材撮影時は、別室で会話をしないで撮影しております。

# 福祉専門職の紹介 理学療法士

子どもたちの無限の力を引き出したい



鳥取県立総合療育センター  
医療型児童発達支援センター「のびっこワールド」  
やまさき  
理学療法士 山崎 さと子さん

理学療法士は、さまざまな理由から身体に障がいのある人や、障がいの発生が予測される人に対して、基本動作能力(座る、立つ、歩くなど)の回復や維持、悪化の予防を目的に、運動機能に直接働きかける治療法から、

## 理学療法士の仕事の内容、やりがいや魅力は何ですか？

動作練習、歩行練習などの能力向上を目指す治療法まで、動作改善に必要な技術を用いて、自立した日常生活が送れるよう支援する医学的リハビリテーションの専門職です。

多職種が協働し、それぞれ専門性を発揮しながら活動をしています。理学療法士としてただリハビリを提供するだけではなく、医療・保育・心理あらゆる視点についても常に学び活かしながら、子どもたちを支援しています。

「遊び」を主体とした保育活動の中に、リハビリ的要素を入れながら支援をしています。みんなが試行錯誤し、阿吽(あうん)の呼吸での支援で、子どもの成長が見られたときは「よしー」とガッツポーズが出ます。

## 「この仕事についてよかった」と思うのはどんな時ですか？

子どもたちが「立てた」「おしゃべりするようになった」「自分でできた」という成長を、保護者やたくさんの



仲間や職員と一緒に喜ぶことができます。

また、保護者がのびっこワールドで学んだことを実践できるようになれば、自分の子どもに自信を持つて決断できたり、人に伝える力がつくなど、たくましく子育てをされている姿を見ると、子どもたちの成長につながっている実感できます。そして、卒園後に顔を見せに来てくれて、できるようになったことを披露してくれたときは、この仕事についてよかったと思えます。

## 障がい児支援の仕事をする中で大切にしていることは何ですか？

全力で子どもたちと遊んで楽しんでいきます。この人と遊ぶと楽しい！という相手になることで、子どもの力を最大限引き出せるからです。子どもの力は無限です。できないことにこだわるのではなく「何が好きか、得意か、どう工夫すればできるか」と常にポジティブな視点でかわっています。

また、親は子どもの最大の理解者で味方です。保護者の不安を軽減し、たくましく柔軟に子育てができるよう、保護者支援を重視しています。

## 休日は何をして過ごしていますか？

旅行が大好きですが、このご時世なので我慢しています。図書館に行ったり、撮りためたテレビ番組を見てゆったり過ごすことが多いです。また、芸人のような我が子達の姿を見ながらいつも大笑いをして癒されています。

## 「福祉のお仕事」への就職を応援します!

### 令和2年度 コロナ禍での就職活動

令和2年度は新型コロナウイルス感染症により、人材センターでも就職フェアがオンライン上での開催になる等、様々な影響がありました。今後も影響が続くことが考えられ、これから就職活動をされる方にコロナ禍での就職活動を体験された方から経験談やメッセージをいただきました!

#### Q コロナ禍での就職活動はいかがでしたか?

コロナ禍で見学に行くのが難しく、実際の雰囲気を感じられないのは不安ありましたが、オンライン化によって交通費がかからなかったですし、感染リスクがないのもよかったです!



#### Q 説明会の中止や延期が相次ぐ中、情報収集はどうされていましたか?

インターネットや説明会で情報を得たり、学校の先生や友達に相談していました。



#### Q 就職活動中はどのように気分転換されていましたか?

友達と話したり美味しいものを食べたりしてリフレッシュしていました!



これから就職活動される方へ  
これからも大変なことがいっぱいあると思いますが、  
後悔のないよう頑張ってください!



インタビューにご協力いただいたAさん(仮名・学生)  
WEB版福祉の就職・転職フェアに参加。4月より  
鳥取県内の福祉施設で勤務予定。

### 鳥取県福祉人材センターのご紹介

鳥取県福祉人材センターは、福祉職場への **就労** と **定着** を支援します!

#### 就 労

福祉のお仕事に就きたい方と、人材を必要とする事業所をマッチングして、福祉職場への就労を支援します。(無料)

「介護職」「保育士」については、専門の就職支援コーディネーターがきめ細やかなマッチングを行います。ぜひお気軽にご相談ください!!

#### 定 着

福祉サービスの質の向上に必要な「知識」「技術」「経験」が蓄積できるよう、

職員や事業所向けの研修などを企画・実施し、福祉を担う人づくりを支援します。

「夢」をやる気に、その気持ちが自身の成長へつながり、成長がやりがいへ。そして、やりがい新たな「夢」に。そんな福祉を担う人、事業所を支援します!!

まずはご相談ください!

社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会鳥取県福祉人材センター  
〒689-0201 鳥取市伏野1729-5 TEL (0857) 59-6336 FAX (0857) 59-6341  
【開設日】月～金 8:30～17:00 (祝日、年末年始は除く)

専用サイトで求職・求人の登録・求人票の閲覧ができます。

福祉のお仕事

福祉のお仕事

検索





# とっとりボランティアバンク 登録団体紹介

## 人形劇団「いとぐるま」

ボランティア活動に関心を持っている方が活動に参加する「きっかけ」を提供するため、県内の生活支援を中心としたボランティア活動や災害ボランティア活動情報を速やかに入手し、発信する場として『とっとりボランティアバンク』があります。

その中でも、ボランティアとともに活動したいという登録団体を紹介します。

[ホームページ] <http://www.torivc.jp/>



定例会に集まったメンバー。前列右端が前代表の奥村曉美さん

「障がい者は隠すものではなく、個性の特徴」として多様性を認め合い、互いに助け合うことで、誰もが障がいを気にしない世の中になれば」と話します。



結成当初から代表を務める、民生児童委員で和食店経営の小磯保弘さんは、

障がいをと舞台をつくる人形劇団は全国的にもまれで、「障がいと社会の間に壁をつくってはいけない」という想いで、障がい者の背中を押すように社会参加に取り組んでいます。



過去の公演の様子

さまざまな障がいを持った人々と健常者が一緒に活動する米子市の人形劇団「いとぐるま」は、1985年に結成して今年で36年になります。

## もっと広がれ障がいの社会参加

劇団は、公演を始めた1988年から昨年までの32年間で、267回の公演を開催してきました。毎年開催される大阪での「ひらかた人形劇フェスティ



稲田親憲さんとお母さんの真弓さんは親子で劇団員です。軽知的障がいがある親憲さんは、高校生入団して8年にな

大阪での「ひらかた人形劇フェスティバル」に通算24回参加するとともに、県内外の保育園や老人福祉施設などで幅広く活動しています。その際「雑念を持たずに人形劇を見て欲しいので、団員に障がい者がいることはあえて公表しません」と小磯さんは話します。



劇団座長の小玉秀明さんは視覚障害がありますが、劇の主役になることが多

また親憲さんが「公演前のあいさつを任されたとき、しっかりとできたのでびっくりしました。劇団は成長の貴重な機会となり、家に閉じこもってはいられないなかつたかも」と、この活動が広がっていくことを願っています。そして親憲さんも「緊張することもあるけど、観客の反応があるとうれしくて、これからは、普通に続けていきたいです」と笑顔を見せます。

人形劇は「人形味の化け蜘蛛(ぐも)」「や「伯耆のかっぱ」「赤松の大明神」など、鳥取県内の民話をアレンジしたものがかりで、民話を広く伝承して行くことも目的としています。そして人形は、発泡スチロールや着物の端切れなどを使った団員みんなの手作りで、手の不自由な人でも動かせるように工夫されています。

現在団員は、障がい者4人を含む小学生から高齢者までの15名です。「障がいがあってもボランティア活動ができるんだと、障がいの可能性を広く求めていきたい」と小磯さん。そして、コロナ禍で公演活動ができず、受け皿を探しています。鳥取県を元気にできるよう「虹の公演」と名付け、小地域で三密を避けた公演(無料、日曜祝日)の引受先を募っています。

**人形劇団「いとぐるま」**  
代表／小磯 保弘  
【問合せ先】  
鳥取県米子市河崎174-1-9  
TEL(0859)29-6155  
(和風料理 小磯)

# 未来へつなぐ高等学校ボランティア部員からのメッセージ [米子松蔭高等学校]

## 仲間と共に心の扉を開き踏み出そう！



県内の高等学校で活躍している部活ボランティアの取り組みを取材し、その活動を通してボランティア活動参加への魅力を発信する企画【西部編】です。今回は、米子松蔭高等学校のインターアクト部です。コロナ禍でも地域を大切に思い、「今できること」を改めて問い、心を繋げるバトンを後輩に託そうとする3年生部員を紹介します。

### 新たな課題に向かって

最初にインターアクト部について顧問の高嶋博子先生から「ボランティア活動を通して、多くの人々と



連携をつくり、ともに手をたずさえて生きていくことの大切さを学び、自己の向上を目指して活動をしています。」と理念と方針を伺った後、コロナ禍における影響などを副顧問の景山智子先生に伺いました。

「現在、部員は3年生の生徒3名です。声掛けをしようとした新入生は休校からのスタートとなり、新入部員獲得のタイミングを逃した影響は大きかったと思っています。部活動再開後に声かけをしてもなかなか入部に結びつかず、何かに取り組もうとする、ぎゅっかけが失われている感じがしています。コロナ禍で

学校が終わったらずに帰宅するという生活リズムの変化も要因の一つとしてあるのではないのでしょうか」と例年とは違う環境の変化と生徒の反応に戸惑いがあるようでした。さらに、部活動では以前から交流のあった施設での活動が停滞する事態となりました。「放課後、わずかな時間でも部活に興味を持てるように新たな部活動の方法を模索しながら、何か違う方法が見つかるヒントを掴みたい」とコロナ禍で新たな課題へと向き合う顧問の先生方の葛藤を感じました。

### 大切な宝物

### 『思いを繋いだ心の架け橋』

このような状況のなかで「何かできることがないか」と部員同士で努力してきた活動を振り返っていたいただきました。まず、九州豪雨の募金活動や学校周辺の清掃活動そしてコロナ禍で交流が停滞していた老人ホーム『ゆうゆう壱番館』に施設の飾り物となるように折り紙で紫陽花の壁面工作をするなど「元氣」を届ける企画として活動したようです。「このような企画で私たちの思いが伝わるのかとても不安があった。でも入所している高齢者の方々が



らの「ありがとう」の感謝のことが届いた時は、元気が伝わったと実感できた」と三人の思いが伝わったことに、その喜びを分かち合えたようです。

さらに、6月頃に何かできることがないかと『子ども用マスク』85人分を頑張って手作りし、『西部あおば

鳥取県ボラセン  
キャラクター  
「はーちゃん」



められてだったけど社会や人の役に立つことができ、普段できない経験ができることが魅力となった。ボランティアをするきっかけがなかなか無いと思うけど、自分の身の回りで



1人目の坂田まどかさんから「ボランティアのきっかけは先生に勧められて」

高校生活の最後にそれぞれ感じてきた。私のなかのボランティアを振り返り、その思いとメッセージをいただきました。

### 私が感じたボランティア

この園児たちからのサプライズを「これまでの交流で全身で喜んでいた姿が忘れられないし、園児一人ひとりの笑顔が浮かんだ。園児自身が描いた似顔絵から気持ちが伝わってくるようで、とても感動した」と振り返り、部員の皆さんにとってこの「寄せ書き」は園児たちとの心の架け橋になっているようでした。

のきっかけはお話をするのが好き



部長の三嶋紗知さんは「あらためて考えるととても難しい。もともと

寂しいと思つたらぜひ友達を誘って参加して欲しい。そして、ありがとうと喜んでもらうことで私たちの思いが伝わり、心のなかが嬉しい気持ちで満たされる感覚を共有して欲しい」と仲間と一緒に喜びを共有できることの大切なメッセージをいただきました。



次に、酒井菜々さんから「小さい頃に介護職である母の職場に

情報を集めながら、誰かからの声掛けとか何かきっかけを探して自分から積極的に参加して欲しいと思う」と自身の経験を語り、ボランティアへ参加して得られることがあると呼び掛けてくれました。

で、中学時代から、マラソンのスタッフや介護施設に行っていた。ボランティアをすることで、様々な世代の方と関われる。自分が知らないところで活躍されている方の思いを知れることが魅力だと思う。ボランティアとは義務的に行動するのではなく、自然と行動を起こしたことで自分の気持ちの中にある、やさしさ、が伝わるのだとも思う。



これまで活動中に心配りをしながら必要なことをちゃんと気づけたことも活動がオフになった途端、その経験を活かすことができません、行動を起こすことのためにためらいがあった」と振り返り、「ボランティアを続けてきたことがとても大切に意義があることだった。あきらめず続けることでオン・オフを意識しないです。自然に行動に移せる様になってきたことが、私のなかで思っているボランティアのよさな気がする。これからも人が困っている時に助け合



園児たちから贈られたメッセージを囲んで

「この思いを後輩たちへ伝えていけるように、そして高校という短い期間の中で地域活動を通して成長する姿が後押しできるよ」というメッセージが後輩に届き、未来に向かって歩み出せるよう繋がりに続けて欲しいと願っています。

最後に顧問の高嶋先生から「誰かのために時間を割いて、その人が喜んでくれたらとても嬉しく感じると思います。そのような経験を積むことで、周囲の人々や物事に目を向け、周囲のためにできることを実行する大人になって欲しい」とエールを送っていたいただきました。

### 未来へと繋げていくために

話していただきました。

## 「とっとり方式認知症予防プログラム」

人は年を重ねると病気やケガのリスクが高くなり、高齢者にとっては認知症という病気も考えられます。

他の病気と同様に認知症も早期発見することがとても重要です。時間をかけて進行する認知症は、早期受診・早期診断・早期治療の適切な対応で、発症や進行を遅らせることが出来るといわれています。そして、認知症の予防または発症を遅らせるには、一般的に「効果が期待できる行動の習慣化が有効」と考えられています。

鳥取県では、2016(平成28)年10月、日本財団との共同プロジェクトにより、鳥取大学医学部の浦上克哉教授を中心に、認知症予防に取り組む県内の医療関係



「認知症予防について」の講義の様子(啓成地区)

者などでチームを結成し、鳥取県独自の認知症予防プログラムの開発に取り掛かりました。チームメンバーの知識や経験を生かして検討を重ね、日常生活でも習慣化できる「とっとり方式認知症予防プログラム」を2017(平成29)年に開発しました。

この県独自のプログラムの特徴は、運動(体力に自信のない方でも安全に行え、自身の体調に合わせて行うことができるプログラム)、座学(認知症についての理解を深める動画の視聴)、知的活動(様々な認知機能を刺激することを目的としたプログラム)、この3つを組み合わせた一連のサイクルを週1回継続して行うことです。

伯耆町で、平成29年10月から平成30年11月までの1年間、高齢者136人がこのプログラムに組み込み認知機能や身体機能の変化を比較・分析したところ、改善につながる医学的効果が全国で初めて証明されました。

効果を証明されたことで、県は「とっとり方式認知症予防プログラム」を市町村と連携して県内へ広く普及することを目指し、指導者の養成や教材の整備などを行っています。



講師による演習の様子(啓成地区)

昨年12月には、米子市の啓成地区で「とっとり方式認知症予防プログラム」の普及・啓発を目的に研修会が開催されました。研修会では、鳥取大学の浦上教授による認知症予防についての講演の後、作業療法士に

よる運動・知的活動の体験が行われ、参加者からは地域のサロン活動でプログラムDVDを活用してみたいという申し出もありました。

このコロナ禍の中、地域のサロン等の開催の中止・延期が続ぎ、集まる機会が制限され、日頃の交流が大変難しくなっています。そんな時だからこそ、認知機能の低下防止や運動不足の解消のために「とっとり方式認知症予防プログラム」を生活の中に取り入れてみてはいかがでしょうか。鳥取県では、自宅でも取り組めるようにホームページ上で「とっとり方式認知症予防プログラム」の動画を公開しています。ぜひご利用ください。

### とっとり方式認知症予防プログラム

週1回2時間を継続して行うことで認知機能の改善、身体機能の向上が期待できます。

運動  
(50分)

動画をしながら行う運動

- 準備運動
- 有酸素運動、筋力運動
- 整理体操

座学  
または休憩  
(20分)

認知症についての理解を深める

4週間のうち1回は動画の視聴  
3回は休憩

運動  
(50分)

思考力や判断力を刺激する活動

- クロスワードなど個人で行う活動
- 全員しりとりなど全体で行う活動

とっとり方式認知症予防プログラム  
ホームページ

<https://www.pref.tottori.lg.jp/33673.htm>

## 米子市男女共同参画センター愛称「かぶりあ」のコーディネーター



米子市役所旧庁舎一階に開設されている、米子市男女共同参画センター(愛称「かぶりあ」)でコーディネーターをされている山根範夫さんをご紹介します。

「かぶりあ(copri-a)」は、カッブル(copple)から作られた言葉で男女が平等な立場で社会生活に共同で参画していく、また、末尾のiaは逆から読むとai(アイ)となり私自身として参画していくことを意味しているそうです。



コーディネーターとして

センターでは、登録団体に会議室、印刷機、キャビネット等貸し出しを行っています。山根さんはコーディネーターとして利用調整を行い、環境を整えて皆さんに気持ち良く利

用していただけるよう気を配っております。

現在、センターに登録されている団体数は54団体あり、以前は研修や会議、創作等で連日のように会議室の利用がありました。が、昨年の新型コロナウイルス感染症拡大以降は利用回数が激減しています。毎年3月に開催されている、登録団体のPRの場である「かぶりあ祭」も昨年は中止となりましたが、今年

は規模を縮小するなど実施方法を工夫し開催に向けて準備をすすめているそうです。

山根さんは、体力保持のため週二回剣道で軽く汗をながしたり、西部レクリエーション協会に所属してニュースポーツの発展普及に尽力したりと、精力的に活躍されています。

### 取材を終えて一言

岡田 信行さん(米子市)



ボランティア活動の大切な事は、互いに認め合って、信頼と協力を基に実行する事だと教わりました。



### ことぶきレポーターの取材より

県内の素敵な高齢者を同世代のことぶきレポーターが取材をします。「シニア」の「シニア」によるシリーズ。地域で頑張っている人、生きがいをもって暮らしている人など高齢者の魅力を余すことなくご紹介いたします。

## 仲間とエコクラフト手芸を楽しむながら



鳥取市湖山町在住の堀内ちえさん(96歳)は、ご自宅を提

供して、共通の趣味仲間と共に(※)エコクラフト手芸を楽しんでおられます。

堀内さんはモンゴル出身の方で、激動の時代に異国の地へ足を踏み入れることは抵抗もあり

り冒険でもあり、それなりの覚悟があったことと思います。言葉の壁、生活習慣の違いを受け止めて努力された堀内さんは、ほっとするような雰囲気を持ち、毅然とした姿の中にいとおしさを感じられる、とても良い年の取り方をしている方だと感じます。

月2回の集まりにお邪魔させていただき驚いたことは、シニアとは思えないほど活気にあふれた雰囲気であること。私も楽しく溶け込むことができました。

好きな手芸に夢中になり、手先を使うので介護予防にもつながり、笑いの絶えない幸せなひと時を過ごしている集まりに好感を持ちました。エコクラフト手芸を楽しむ方々の生き方は前向きで生涯現役を貫く元気を感じてうらやましく思い、私自身、元気をもらえた取材でした。



できました。この会は手芸のみに止まらないで、時には新聞をみんなど読み社会に対する関心も深め、また、日々の生活で不安や悩みを感じている話を聞いて受け止める仲間の存在が大きな場です。

### 取材を終えて一言

清水 はるみさん(鳥取市)



コロナウィルの時代、行動範囲がせばまれる世の中に、気を許せる仲間がいることは心丈夫で、今を大切に過ごしていることを感じました。

(※)クラフトテーブルを使用し、日常生活で使えるバスケットなどを編んで作る。

## 鳥取県福祉人材センターのご案内

鳥取県福祉人材センターは、職業安定法に基づく無料職業紹介事業(厚生労働大臣許可)をはじめ、福祉人材の確保・育成・定着に関わる総合的な取組を行っています。【無料職業紹介事業許可番号13-4-010001】

### ■無料職業紹介事業

福祉の職場で働きたい方、求人情報を知りたい方には、求職登録や職業紹介、求人情報の提供を行ないます。

また、人材を求める事業所には、求人の条件に該当する求職登録者の紹介など、求人者と求職者双方のニーズに応えます。ご利用は無料です。



### 福祉の職場で働きたい方への職業紹介の流れ



就職後の定着や  
キャリアアップのご相談も



### 人材を求める事業所への就業あっせんの流れ



介護施設、保育園、障がい者施設、児童養護施設等

まずはご相談ください！

社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会鳥取県福祉人材センター  
〒689-0201 鳥取市伏野1729-5 TEL(0857)59-6336 FAX(0857)59-6341  
【開設日】月～金 8:30～17:00(祝日、年末年始は除く)

専用サイトで求職・求人の登録・求人票の開覧ができます。

福祉のお仕事



## とっとりボランティアバンクにご登録ください

ボランティアをしてみたい

そのときは…  
とっとり  
ボランティア  
バンクに

ご登録  
ください!



ボランティアと一緒に地域を元気にしたい  
ボランティアの力を借りたい

ボランティアバンクではこんなお手伝いをします

**ボランティアの活動調整**  
ボランティアを募集する方と、活動する方との調整を行います。

**ボランティア活動に関する情報提供(メルマガ)**  
登録された方に、ボランティア募集やボランティアに関する講座・研修などの情報をメールなどで提供します。

**ボランティア活動に関する相談受付**  
ボランティア活動に関する困りごと、お悩み、助成金の申請方法など、何でもご相談ください。

ボランティアバンクに登録いただくと…

**ボランティアしたい人(団体)**  
県内外のボランティア募集やボランティア関連講座・研修などの情報を受け取ることができます。

**ボランティアの力を借りたい団体**  
とっとりボランティアバンクのHPやメルマガを通じてボランティア募集やボランティア関連講座・研修などの情報を発信できます。

### 登録したいと思ったら…

下記ホームページから登録いただくか、登録票に必要事項を記入のうえ、ファクシミリもしくはEメール、郵送にて送付してください。登録票は下記ホームページからダウンロードいただくか、お問い合わせ先にご連絡ください。  
ホームページアドレス <http://www.torivc.jp/>



令和3年度

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

全国200万人加入!! 日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

# ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料 (1名あたり)

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円		
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額		6,500円		
	手術保険金	入院中の手術		65,000円	
		外来の手術		32,500円	
	通院保険金日額		4,000円		
賠償責任の補償	賠償責任保険金(対人・対物共通)		×	○	
年間保険料			350円	500円	

商品パンフレットは  
こちら



(ふくしの保険  
ホームページ)

団体割引 20%適用済 / 過去の損害率による割増引適用

<基本プランに加入される方へ>

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

**ボランティア行事用保険** (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

**送迎サービス補償** (傷害保険)

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

**福祉サービス総合補償**

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、パンフレット・詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課  
TEL: 03(3349)5137  
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763  
受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

●この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

# HOTeyeギャラリー

## NPO法人 夢ハウス (障がい者就労継続支援B型事業所) 『ドリームアート』作品紹介

### ☆自分のしたいことを目標にして生きることが大切

NPO法人夢ハウス(障がい者就労継続支援B型事業所)では楽しみながらの社会参加をサポートしています。平成24年に鳥取県障がい者アート活動支援を受け、アート活動を開始しました。毎月2~3回、10~15名の利用者が参加して、絵画講師、イラスト講師の指導で作品を制作しました。現在、活動自粛中です。出展歴: あいサポート作品展(2016年~2020年) 百花斉放ドリームアート作品展(2015年~2019年)



作品名:『富士山』  
作者:太田垣 康二さん

#### 制作方法

パソコンでフリーペイントツールを使用して制作。写真素材を上下反転、変形を繰り返しながら幾層にも重ね加工を加え、自分のイメージに近づけています。

#### 作品づくりへの思い

複雑に重なる太陽の光によっていつもとは違う表情を見せる風景を描きました。色彩を重要視し、立体感が出るように工夫しています。完成後は次のアイデアが浮かび、試してみたいくなります。



サイズ:35×45×75cm

サイズ:50×80×105cm

作品名:『DRAGON』と『龍』のセロテープアート  
作者:KMさん

#### 制作方法

ニチバンのセロテープのみを使用。『DRAGON』100巻、『龍』300巻を使用し、1枚1枚丁寧に貼り付ける細かい作業を繰り返して制作。制作日数は6ヶ月から2年以上かかって完成しました。

#### 作品づくりへの思い

ただひたすらに手を動かして、まだ終わらないかと考えながら同じ作業を繰り返し、完成すると達成感よりは解放感の方が強く、次は何を作ろうかと考える。

## 社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5(県立福祉人材研修センター内)  
URL <http://www.tottori-wel.or.jp> e-mail [soumu@tottori-wel.or.jp](mailto:soumu@tottori-wel.or.jp)

福祉人材の  
求人・求職  
の窓口です

### 鳥取県福祉人材センター

TEL.0857-59-6336 FAX.0857-59-6341  
URL [http://www.tottori-wel.or.jp/p/jinzai/shigoto\\_top/](http://www.tottori-wel.or.jp/p/jinzai/shigoto_top/)  
e-mail [jinzai@tottori-wel.or.jp](mailto:jinzai@tottori-wel.or.jp)

ボランティア活動の  
幅を広げる  
活動を応援します

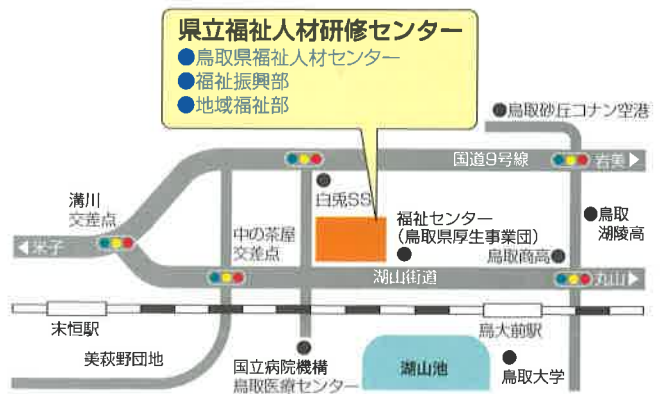
### ボランティア・活動支援担当

ボランティア担当 TEL.0857-59-6336  
福祉・教育担当 TEL.0857-59-6344  
FAX.0857-59-6341  
URL [http://www.tottori-wel.or.jp/p/jinzai/vol\\_top/](http://www.tottori-wel.or.jp/p/jinzai/vol_top/)  
e-mail [vc@tottori-wel.or.jp](mailto:vc@tottori-wel.or.jp)

元気な高齢者の  
生きがい・社会貢献  
を支援します

### 明るい長寿社会づくり推進事業担当

TEL.0857-59-6332 FAX.0857-59-6340  
URL <http://www.tottori-wel.or.jp/p/chiiki/kotobuki/>  
e-mail [kototori@tottori-wel.or.jp](mailto:kototori@tottori-wel.or.jp)



本誌について、また、福祉に関することについて  
県民のみなさまからの御意見をお寄せください。



鳥取県男女共同参画推進企業

「HOTeye ホットアイ」第106号/令和3年3月19日発行

発行/社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会 〒689-0201 鳥取市伏野1729-5(県立福祉人材研修センター内) TEL.0857-59-6331 FAX.0857-59-6340

印刷/日ノ丸印刷株式会社